

2021/01/25
第 693 号

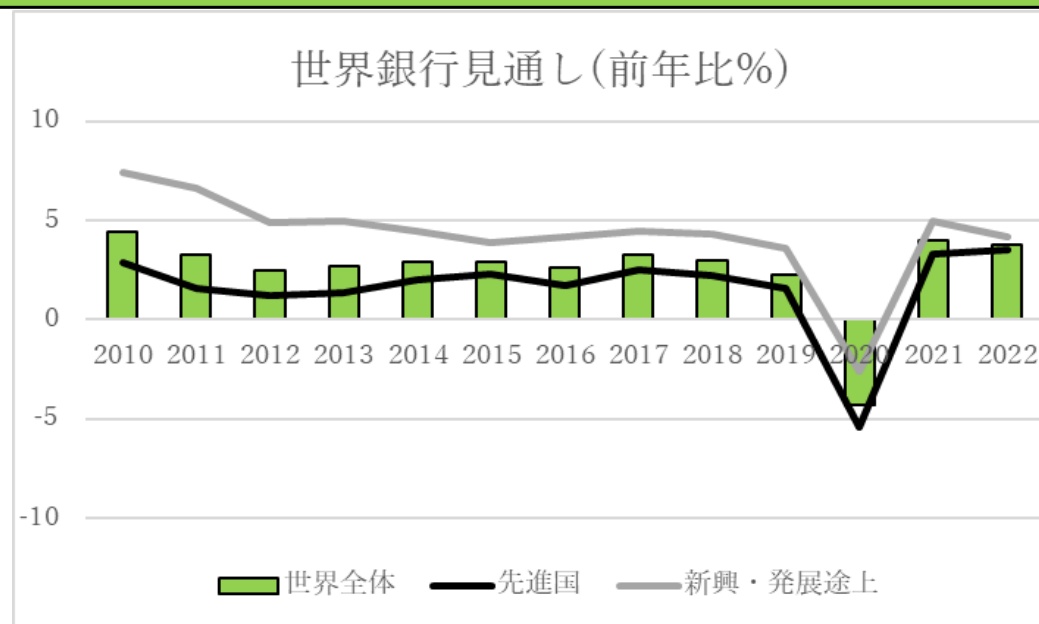
朝日田コーポレーション ニュースレター

監修 北海道大学教授 宮脇 淳

朝日田コーポレーション

- メールアドレス:
info@sapporo-php.co.jp
- ホームページ:
http://www.sapporo-
php.co.jp:

世界経済:回復力限定的



(資料)世界銀行「Global Economic Prospects」2021.1

世界銀行「Global Economic Prospects」2021.1では、2020年世界経済が前年比マイナス4.3%成長となった後、新型コロナウイルス感染症に対する初期ワクチンが世界的に広く普及した場合には、2021年世界経済は同4%成長が見込まれ、先進国では同3.3%成長、新興国・発展途上国では同5%成長となると予想している。この場合でも、先進国がさらに経済回復し3.5%成長となるのは2022年とされている。しかし、これは現在の初期ワクチンが世界的に広く普及した場合であり、感染危機の封じ込めが不完全で新たな犠牲者の増加や困窮状態の深刻化が生じた場合、世界の経済活動への制約と所得環境の悪化を長期にわたってもたらす可能性がある。加えて、ワクチンを敏速且つ広範に供給するために必要な投資、そして政府債務に依存しない形での再投資サイクルが確立しない場合は、回復がさらに極めて限定的になるとしている。

先進国では、2020年第3四半期に感染拡大が再燃したため回復が減速し、経済再開の難しさが明確になっている。米国の国内総生産は、2020年に同マイナス3.6%となった後、2021年に同3.5%に上昇する。ユーロ圏では、2020年同マイナス7.4%を記録し、2021年は同3.6%になると予想され、日本は2020年に同マイナス5.3%に減速、2021年は同2.5%の成長になると予測されている。中国を含めた新興国・途上国全体の国内総生産は、2020年に同マイナス2.6%、2021年は同5%の成長になるとみられている。中国の成長率は2020年同2%、2021年は同7.9%に加速すると予測される。